

本校の授業 その8

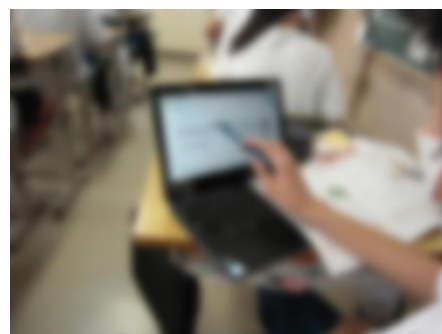
3年 道徳 沼澤智恵

【題材】 独りを慎む

【価値】 A-2 節度、節制

<題材の概要>

筆者の向田邦子さんは、一人暮らしを始めた際、急激に変わっていく自分の生活の実態を顧みる。料理を皿に盛らず、フライパンで直に食べたり、風呂から上がって下着だけでいつまでもいたり、座る形も誰もいないことをいいことに行儀が悪くなっていることに気づく。そんなとき、「独りを慎む」という言葉に出会うのである。

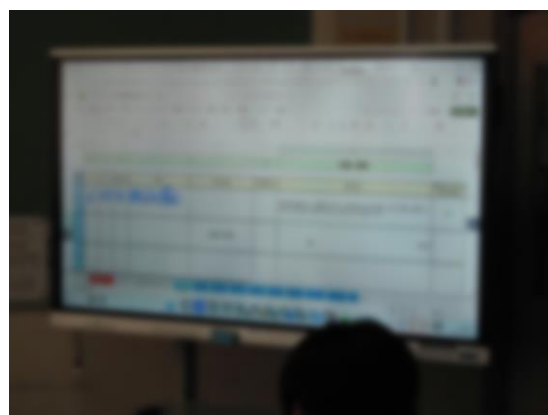


<生徒の振り返りより>

- 1 「独りを慎む」ことができれば、本当の自分が見えてくる。 そんな自分が見られたとき、自分を好きになれると思う。
- 2 「独りを慎む」ことは難しいことだと感じた。 どれだけ理想の自分に近づけるかという努力なのかもしれない。

評価シートによる
振り返り →

授業の最後に、古典で「君子」を扱ったので 「君子は必ず独りを慎む」『礼記』よりふれて終えた。



<指導者の工夫>

- ・授業の最初と最後に同じ発問をし、生徒自身がこの授業で何を考えたかを自覚できるようにしたこと。
- ・「独りを慎む」という言葉の出典は中国の古典の『礼記』である。2000 年以上前から大切にされてきた考えであることを終末に紹介した。授業後も考え続ける工夫を行ったこと。